

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波有効利用方策委員会
VHF/UHF帯電波有効利用作業班
VHF帯共用検討グループ（第2回）議事要旨

1 日時

平成19年3月26日（月）19時00分～19時55分

2 場所

総務省第一会議室

3 出席者（敬称等略）

（総務省）大野電波政策課周波数調整官、小泉電波政策課周波数調整官

（構成員）加藤代表（日立国際電気）、黒田副代表（NHK）、

翁長（警察庁）、竹内（日本無線）、立石（東日本旅客鉄道）、飛田（三菱電機）、平林（松下電器）、宮本（三菱電機）、渡辺（日本電信電話）、大黒（アールコム）、酒井原（松下電器産業）、丸山（日本電気）、三浦（NHK）、荒井（TBS）、内田（クアコムジャパン）、大橋（モバイルメディア企画）、窪田（JSAT）、近衛（ニッポン放送）、田中（ホームサーバー企画）、廣野（フジテレビ）、増田（メディアフロッジジャパン企画）、横田（伊藤忠）、小川（DRP）、小池（エフエムインターウェーブ）、小谷（MPXJ）、佐々木（J-WAVE）、橋本（TBSラジオ）、林（日経ラジオ社）、仁平（全国FM協議会）、藤井（日本民間放送連盟）、柳（横浜FM）

4 議題

(1) VHF帯共用検討グループに課せられた課題について

5 議事要旨

(1) VHF帯共用検討グループ（第1回）議事要旨について

（加藤代表）議事要旨について不備があれば各代表あて申告すること。

(2) VHF帯共用検討グループに課せられた課題について

ア VHF帯共用検討グループ課題回答書(案)について

（資料 2022-VU 作-VHFad2-2）

加藤代表から、以下の説明後、質疑があった。

1) 所要周波数幅について

自営通信における防災等の安心・安全用途および放送用途で、それぞれ、検討条件を 35MHz 幅として検討を進める。

2) 周波数配置について

委員会の指示に沿って、VHF 帯ローバンドおよびハイバンドの 17MHz を放送用途で、VHF 帯ハイバンドの 35MHz を安心・安全用途としてハイバンド内の周波数配置を検討する。

3) ガードバンドについて

検討条件である 35MHz 幅の帯域内に必要に応じてガードバンドを確保し、各用途間およびVHF 帯の隣接システムとの共用条件を検討する。

検討は各用途の想定モデル等を使って行う。

(大橋構成員) 電波有効利用の観点、事業性、実現性を考慮して周波数配置を決めるべきであり、放送で使い難くてもVHF ローバンドは放送用途か。

(大野調整官) VHF 帯のローバンドを放送用途とすることは委員会の決定事項であり、課題検討の前提条件として枠を決めて検討せよというのが委員会からの依頼事項となるので、それに対して回答する必要がある。

(佐々木構成員) 「自営通信」「放送」という名称で議論しているが、いつから「放送業務」「移動業務」という業務区分名称に変わるのか。

(大野調整官) 答申案を作成するところの見込み。

(加藤代表) 以上の議論を受け回答書から「案」を取り 3 月 28 日の作業班で報告する事とする。

イ 自営通信グループの課題回答について (2022-VU 作-VHFad2-2-別添-1)

加藤代表からの資料概要説明後、以下の質疑があった。

(小川構成員) 資料では安心・安全用途の実現には 35MHz では不足となっており、VHF 帯共用検討グループの回答書案と矛盾する。

(加藤代表) 別添資料の表現を工夫して修正する。

ウ 放送グループの課題回答について (2022-VU 作-VHFad2-参考-2)

黒田副代表から資料概要が説明された。

エ 自営通信グループの干渉検討モデルについて (2022-VU 作-VHFad2-参考-2)

加藤代表からの資料概要説明後、以下の意見があった。

(大野調整官) 自営通信グループの許容干渉レベルについて、自分の内部雑音レベルより、もっと低くないと許容しないというのはBWAの中ではそうになっているが、現実的かどうかはこれから検討すべきことである。また、放送グループも所要C/Nの劣化量として 2 dB 分を配分するとしているが、一番悪いところでそうだとした場合によっては回線設計にある各種マージンが不要と

なり地域によっては許容干渉レベルが変わる可能性があるため、互いにモデルを示す事は議論の出発点としては良いが、モデルの数値を優先し過ぎると予想外のガードバンドを自らの帯域の中に用意する事となるため考慮が必要。

(佐々木構成員) 放送側はガードバンド込みで35MHzと決めているが、自営通信側資料にも明記すべき。また、ガードバンドはどこかで割り切らないとガードバンドだらけになるのでOFDM等のモデル化した検討が必要。

(加藤代表) 最も電波の有効利用が図られる事を目指して検討を進める。

(3) 今後のスケジュールについて

加藤代表から今後のスケジュールを説明。

3月28日 17:30から第6回作業班（総務省講堂）

3月30日 16:30から第6回委員会（総務省第1会議室）

(大野調整官) 30日の委員会における作業班報告は若尾作業班主任が行うが、各グループ代表者にも説明してもらう予定。

以上

【配布資料】

資料 2022-VU 作-VHFad2-1 VHF/UHF帯電波有効利用作業班VHF帯
共用検討グループ（第1回）議事要旨（案）

資料 2022-VU 作-VHFad2-2 VHF帯共用検討グループ 課題回答書（案）

資料 2022-VU 作-VHFad2-2-別添-1 自営通信グループに課せられた検討課題回答

資料 2022-VU 作-VHFad2-2-別添-1 別表 自営通信グループに課せられた検討
課題(1)回答

資料 2022-VU 作-VHFad2-2-別添-2 放送グループの検討状況

資料 2022-VU 作-VHFad2-参考-1 諮問第98号「デジタル放送導入のための地上
放送の置局に関する技術的条件のうち「地上デジ
タル音声放送の置局に関する技術的条件」

資料 2022-VU 作-VHFad2-参考-2 干渉検討モデルの考察